

岩瀬農業高校のグローバルGAP取得から考える――

風評被害とその払拭への取組

3月11日で、東日本大震災から8年が経ちますが、震災に起因する県内産食品への風評被害は未だ払拭されていません。このような中、昨年11月、県立岩瀬農業高校がグローバルGAPを取得しました。グローバルGAPとは、農産物や農作業の安全性を管理する国際認証のことで、風評被害からの信頼回復の効果が期待され、福島県でも取得を推進しているものです。今月号では、風評被害の現状と岩瀬農業高校の取組についてご紹介します。

写真：岩瀬農業高校の収穫実習の様子

放射性物質による汚染

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響による原発事故により、原発建屋から放射性物質が拡散し、約64km離れた本町にも多大な影響を及ぼしました。

特に農作物においては、飛散した放射性物質が付着し、これらを食品として大量に体内に取り入れると内部被ばくを引き起こすことから、厚生労働省が食品の放射線量に関する基準値を設け、県によるモニタリング検査の結果この数値を超えるものについては、出荷・摂取制限がかけられました。現在でも、町内の野生きのこ類等について出荷制限がかけられています。

【町内産食品の一部 出荷・摂取制限】

平成31年2月15日現在、町内産の「野生きのこ」、「こしあぶら」、「野生のたらのめ」に出荷制限、イノシシ肉等に出荷・摂取制限がかけられています。

徹底した検査

食品の安全・安心を確保するため、厚生労働省では基準値等のガイドラインを設けており、福島県では、生産段階（産地・生産者等）、流通段階、消費段階において様々な検査を行い、安全性を確認しています。

県では、米において、放射性セシウムの「全量全袋検査」を実施しており、JAや出荷業者等の協力により、出荷の有無にかかわらず県内で収穫された全ての米を検査しています。なお、鏡石産の米については、検査開始以来、基準値を超えたものではありません。また、町では、児童生徒等の安全・安心確保のため、給

風評被害の現状

食の食材について、町独自の基準を設けて検査を行っています。さらに、家庭菜園など町内産の自家消費野菜等の希望検査も行っており、町勤労青少年ホームに放射能簡易分析装置を設置し測定を行い、結果を毎月広報かがみいしに掲載してお知らせしています。

基準値は、国際的な考え方と整合し、すべての年齢の方に配慮して、生涯食べ続けても安全性に問題が生じないよう設定されています。つまり、その基準を基に徹底的な検査を行っている福島県の食材は安全性が高いと言えます。しかしながら、農林水産省が行った「平成29年度福島県産農産物等流通実態調査」によると、「福島県産農産物は、全体として震災前の価格水準まで回復していない」とされ、消費者の一部には、依然福島県産のイメージとして「安全性に不安がある」との意見が存在するなど、「風評被害」が払拭されていないのが現状です。

【食品中の放射性セシウム基準値】

主な基準値 (bq/kg)

品目	基準値
飲料水	10
牛乳・乳児用食品	50
一般食品	100

県立岩瀬農業高校

グローバルGAP取得で

風評被害払拭へ

昨年11月、県立岩瀬農業高校が農産物や農作業の安全性を管理するGAPの国際認証「グローバルGAP」を取得しました。取得したのは、米、リンゴ、パジル、キュウリ、レタス、水菜の6品目で、全国で2番目の多さです。認証は、「食品安全」、「労働環境」、「環境保全」に配慮した持続的な生産活動を実践

する生産者であることの証明になることから、取引先や消費者との信頼関係の構築や販路拡大につながるなどのメリットがあります。また、取得に向けた取組により、経営改善、リスク管理、従業員教育などの効果も期待できます。グローバルGAPの取得による「安全性の証明」によって風評被害払拭への効果が期



グローバルGAP認証取得の報告に来庁

待されることから、県では「ふくしま」を行い、県内事業者等にGAPの認証取得を推進しています。また、グローバルGAPなどの認証を取得するこ

ユラックス熱海で発表

とで、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準を満たすこととなり、使用されることになれば、福島県産の農産物の安全性を世界へアピールすることにつながります。

2月15日(金)、ユラックス熱海(郡山市)で開催された、県と県農業協同組合中央会主催による「ふくしま。GAPチャレンジセミナー」において、岩瀬農業高校が「農業高校におけるGAPの取組」のテーマで発表を行いました。発表では、衛生管理や安全確保など、GAP取得に向けた取組に加え、オランダ研修を通して体験した「風評被害が根強く残る現状」や「福島県の安全性を伝える体験」について説明し、風評被害払拭のためのグローバルGAP取得の必要性を訴えました。発表の最後

オランダ研修での体験

岩瀬農業高校では、2年に1度、国際交流派遣事業としてオランダ研修を行っており、今年度は、9月29日から10月6日の8日間の行程で1・2年生11人が参加しました。

研修では、オランダの先進的な農業の視察やブルメン市長への表敬訪問などを行いました。生徒たちが最も心に残っていると話すのが「大学生との交流会」です。交流会では、「福島の食べ物は危険か」の質問にほぼ全員が手を挙げ、放射能が人から人にうつると考えている人も多くいました。しかし、持参したブドウジャムを試食してもらおうと、「おいしい」とおかわりをしてもらおうなど、福島の食べ物の安全性を伝えることができました。

生徒たちは、この体験を通して、風評被害の現状を知り、伝え続けていくことの大切さを学びました。



には、「福島県の復



①来場者約300人の前で発表
②壇上で堂々と発表する生徒たち

興へ、私たちは挑戦し続けたい」との言葉で締めくくられ、会場からは盛大な拍手が贈られました。岩瀬農業高校の、グローバルGAP取得による食材の信頼回復の取組や安全性を伝える取組、このような取組を続けていくことが、未だ残る風評被害の払拭につながるのではないか。